

女性経営者 ^{やまざき}山崎 ^{さなえ}早苗さん 長崎県五島市

～非農家からのターンで就農。夫と共同経営する傍ら、30代で農業委員、直売所の代表も務める若手経営者～

略 歴

【氏 名】 山崎 早苗

【住 所】 長崎県五島市

【活動歴】

平成 8年 帯広畜産大学卒業

平成 8年 帯広畜産大学大学院入学と同時に休学

1年間、ドイツのバイエルン州の農家民宿にて農家実習を体験

平成 9年 帰国、復学3ヶ月後大学院中退

平成13年 長崎県福江市（現五島市）の農業研修生として採用され、2年間の研修後、就農

平成17年 直売所「かたし」を開設し、代表を務める

平成20年 五島市農業委員に就任



活 動 状 況

1 活動の内容

(1) 農業活動

小規模ではあるが、環境保全型、地域循環型の農業をしている。夫と役割分担（例：鶏は夫、ブルーベリーは私、というように）しながら作業をしている。「棚田オーナー制度」や小学校の田んぼ作りの手伝いも行っている。

(2) 直売所「かたし」の活動

5年前、使われていなかった元商店を友人と改築して、毎週土曜日開店の直売所で自分たちの作物だけでなく、地域の人が作った物を少しずつではあるが販売している。

2年前より「かたしでお昼ごはんを食べる会」を始め、地元の料理上手なお母さん2人に、地元の食材で昼ごはんを作ってもらい、みんなで食べるという食育活動を実施。その他、イベント、会合、ライブ等々不定期に行っている。

(3) 農業委員としての活動

私が住んでいる地域は、条件の悪い農地しかなく、専業農家もいないため、農地のことよりもむしろ上記のような活動で、一般の人への啓蒙活動を農業委員の活動と位置づけてやっている。

2 活動に至ったきっかけ、経緯

(1) 就農に至った経緯

子供の頃から農業に対する漠然とした憧れがあり、高校3年の時にある農夫との出会いにより進路を決定し、帯広畜産大学へ。在学中、グリーンツーリズムに興味を持つ。卒業後、夫と共に就農する場所を探し、最終的に五島市で就農。

(2) 直売所「かたし」を開設した経緯

毎日通う保育園の途中に使われていない元商店の建物があり、その建物が「自分をもう一度使って欲しい」というメッセージを私に送っているような気がしたので、その頃知り合った地元の友達に話したら「一緒にやろう」ということになった。

(3) 農業委員になったきっかけ

地元の市議会議員が3人家にやってきて、推薦枠での農業委員になって欲しいと言われたので引き受けた。役員等の話があれば断らないと決めている。いろんなことを経験することは自分のためになる。

3 女性が経営参画又は社会参画するメリット

自分が関わっていくことで、自分の経営あるいは社会を良くしていこうという気持ちになり、それは人生の大きな目標となるので、やりがいがある。

4 活動するにあたり苦労した点や課題となったこと、また、その対処方法

育児に関しては、やはり子供が小さい時は、誰も面倒を見てくれる人がいないので大変だった。保育園に入れるまでは、あまり仕事はできなかった。「かたし」の改装期間中(2ヶ月間)は、家に5歳と2歳の子供だけを置いて作業に行ったり、綱渡りのような日々もあった。非農家からの参入者にとっては、子供を預かってくれる環境がないと厳しい。

5 若手女性農業者に向けたアドバイス等

自分の得意分野を生かすのが一番。農業は全てにつながっているため、やってみたいこと、好きなこと等関連させてやってみたらいいのではないかと思う。

先輩農業者や組織、地域の方は温かい目で見守っていただきたい。子育て世代の女性が外に出ることを当たり前と感じて欲しい。

6 今後の活動展開

今やっていることを今後も持続させていきつつ、農業技術の向上や効率を良くしてもっと収量を上げたい。面積も増やしたい。

いずれは、「かたし」の稼働時間を増やして、雇用を生み出せたら最高！農業生産・加工、飲食、販売はもちろん、育児から介護まで地域の生活全般をサポートする「かたしグループ」にしていきたい。

○直売所「かたし」の状況

